

## 令和7年度 兵庫県農業気象技術情報第6号（10月情報）について

### 1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稻	全县共通	<p><b>1 生育等</b>            中～晩生品種の出穂期について、品種ごとに傾向は異なるものの、全般にやや早まつた。高温傾向が続いたことから成熟期も早くなると見込まれる。出穂後、収穫までの積算温度は1,000°C～1,050°C日が必要といわれている。黄化粒率（うるち米で85%程度、酒米で90%程度）を観察して、適期収穫に努める。特に山田錦は刈り遅れると胴割れ粒が増えるので注意する。また、収穫粒の毎時乾減率の目安は、うるち米で0.8%以下、酒米で0.5%以下を基準とし、急速に乾燥させないように注意する。</p> <p><b>2 病害虫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) トビイロウンカはやや少ない発生である。一部には坪枯れ被害がみられた。</li> <li>(2) スクミリンゴガイは稻刈り前の落水とともに、水田土中に潜り越冬する。</li> <li>(3) ごま葉枯病の発生は、県全体では平年並であるが、一部で多発しているほ場が認められる。本病は被害わら粒が伝染源となるため、多発したほ場では次年度作においても多発する可能性がある。</li> <li>(4) 紹枯病の発生は、県全体では平年並であるが、一部ではやや多い発生が認められる。そのようなほ場では、次年度作においても伝染源となる菌核が形成され、多発する可能性がある。</li> </ul>	<p><b>2 病害虫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) トビイロウンカは、特に本田で無防除のほ場や多収性品種作付ほ場で多発することがあるため、株元を観察し、群棲が認められたら被害の発生と拡大を防ぐため、薬剤散布を行う。収穫期に近い時期の薬剤散布となるので、使用する薬剤の収穫前日数を必ず確認する。</li> <li>(2) スクミリンゴガイが発生していたほ場は、土の表面をよく乾かしてから、丁寧に耕うんする。</li> <li>(3) 多発したほ場では、土壤診断に基づき堆肥や土壤改良資材により土づくりを行う。生育後期に肥料（窒素）切れすると発病が助長されることから、次年度作において、追肥を行い、肥料切れを避ける。詳しくは令和7年7月29日発表の令和7年度病害虫発生予察技術情報第1号（<a href="https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1394">https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1394</a>）を参照すること。</li> <li>(4) ほ場での発生現況（刈り取り前も含めて）を把握して、秋耕して菌核を土中にすき込む、播種時あるいは移植時に紹枯病に効果がある箱施用剤を使用するなどの対策を行う。秋耕はより深耕で菌核を埋め込むには、ロータリー耕よりプラウ耕の方が効果は高い。</li> </ul>

大豆 全県 共通	<p><b>1 生育等</b></p> <p>普通大豆は、8月中旬までは高温少雨で推移したが、開花期からの定期的な降雨によって生育は概ね順調に進んでいる。着莢数は昨年よりも良いが、地域でばらつきが見られる。「サチユタカA1号」は難裂莢性であるが、刈取りが遅れると品質が低下するため、他品種と同様に適期収穫に努める。</p> <p>一方、黒大豆は、梅雨明け後は、高温少雨・多照傾向でやや生育が停滞していたが、8月以降の周期的な降雨によって生育は概ね順調に進んでいる。着莢数は、昨年よりも良いが、地域でばらつきが見られる。</p> <p>&lt;刈取り適期の目安&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子実水分20%程度（莢を振ると音がする）になったとき。</li> <li>・コンバイン収穫の場合は、茎水分50%以下になったとき。目安としては茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れるとき。刈取り前には青立ち株を引き抜く。</li> </ul>
	<p><b>2 病害虫</b></p> <p>(1) 立枯性病害の発生は、9月下旬の調査では、一部地域で茎疫病が発生しているが、県内全域では平年並の発生である。</p> <p>(2) 紫斑病は、9月下旬の調査では平年並の発生である。</p> <p>(3) ダイズでのハスモンヨトウは、やや多く、9月のフェロモントラップの誘殺もやや多い。気温は平年より高いと予想され、ハスモンヨトウの繁殖に好適な条件が続くため注意が必要である。</p> <p>(4) 吸実性カメムシ類は、一部のほ場で幼虫の発生が確認されている。今後気温は平年より高いと予想されていることから、カメムシ類の繁殖に好適な条件が続くため注意が必要である。</p> <p><b>2 病害虫</b></p> <p>(1) 立枯性病害は排水不良が発病を助長する。急激かつ大量の降雨による停滞水が生じないように排水対策等を実施して、ほ場管理に努める。</p> <p>(2) 紫斑病の対策として、密植・過繁茂のほ場では枝を切除して風通しを良くする。薬剤防除を行う場合は病害虫・雑草防除指導指針等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。</p> <p>(3) 本種の防除上の留意点については後述するキャベツの項を参照。</p> <p>(4) 吸実性カメムシ類の成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続ける。薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考にし、農薬使用基準を守る。</p>

麦 全 県 共 通	<p>1 栽培管理（播種準備の留意事項）</p> <p>(1) 計画的な播種を行うため、水稻刈取り後、周辺溝や弾丸暗きよの設置を行い、排水対策に努める。</p> <p>(2) 出芽、初期生育を良くするため、ほ場のpH調整を十分に行う。pHが低いと生育不良を招く。石灰質資材散布後、耕うんは播種直前に行う。</p> <p>(3) 有効茎数を確保するため、地域に合った播種時期・播種量とする。</p> <p>(4) 施肥播種機の調整をしっかりと行う。</p> <p>(5) 播種後は速やかに排水溝を設置し、除草剤散布を行う。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 水稻収穫時に、ほ場の枕地にコンバインによるわだちができないよう留意する。その後は、耕うん作業前に額縁明きよや弾丸暗きよを施工して、圃場の排水性を高めておく。本暗きよがない場合は、通常の弾丸暗きよの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げた部分から3本程度の放射状の弾丸暗きよを施工して、圃場に設置した弾丸暗きよから集水してほ場外への排水を促す。</p> <p>(2) 石灰質資材は早めに施用し、土壤pH 6.0~7.0になるように調整する。土壤pHが低いほ場は、施用量を増やす。</p> <p>(3) 耕うんは播種直前に行い、県北部及び中山間部では10月下旬から、県南部では1月上旬から播種を行う。ただし、「ゆめちから」は10月下旬から播種を行う。播種量は10a当たり、10月下旬で6kg、11月上旬で8kg、播種時期が遅くなれば、播種量を増やす。</p> <p>(4) 播種前に播種量、施肥量、播種深度を調整してから播種し、播種時に微調整する。播種後、排水溝の設置、手直しを行う。</p> <p>(5) 排水溝は3~5m間隔で設置して、つなぎ目は手直しをして、表面排水を徹底する。除草剤散布後、排水溝の崩れた部分は手直しを行う。</p>
キ ヤ ベ ツ	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 定植～活着までの間は、特に乾燥に注意する。</p> <p>(2) 作業が遅れないよう、適切な時期に追肥、除草等の管理を行う。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温・乾燥による水ストレスを与えないよう、必要に応じて畝間かん水等を行う。</p> <p>(2) 結球開始初期の追肥は、畝肩または畝間に施用し、除草を兼ねて谷上げし、遅れないよう計画的に作業を行う。</p>

キヤベツ継続	<p><b>2 病害虫</b></p> <p>(1) ハイマダラノメイガはクレオメ（誘致植物）の調査ではやや多い発生が続き、ほ場での発生も確認されている。今後、気温は平年より高いと予想されており、本種の発生に好適な条件が続くと考えられ、やや多い発生が続くと予想している。</p> <p>(2) 9月のハスモンヨトウとシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査では、両虫種ともやや多い状態で推移している。今後、気温は平年より高いと予想され、両種とも繁殖に好適な条件が続くことから、被害の発生、拡大に注意が必要である。</p> <p>(3) オオタバコガはフェロモントラップ調査でやや多く推移している。今後、気温は平年より高いと予想され、繁殖に好適な条件が続くことから、被害の発生、拡大に注意が必要である。</p>	<p><b>2 病害虫</b></p> <p>(1) ハイマダラノメイガ幼虫は作物の生長点を加害するため、被害を確認してからの防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、定植前後の予防的防除に努める。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。詳しくは令和7年7月24日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第2号 (<a href="https://bojo.hyogo-noourinsuisangc.jp/archives/1390">https://bojo.hyogo-noourinsuisangc.jp/archives/1390</a>) を参照すること。</p> <p>(2) ハスモンヨトウとシロイチモジヨトウ両種とも卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。特にシロイチモジヨトウは茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があるため、定植直後の食害には注意する。中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。詳しくは、令和7年8月7日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第3号 (<a href="https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1426">https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1426</a>)、9月11日発表の同第4号 (<a href="https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1457">https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1457</a>) 及び9月19日発表の同第5号 (<a href="https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1466">https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1466</a>) を参照すること。</p> <p>(3) 若齢幼虫は成長点付近の新葉に潜り込み、中齢以降は、結球部にも潜り込んで加害することから、中～老齢幼虫には薬剤がかかりにくく、防除効果が著しく低下するため、早期発見・早期防除に努める。薬剤防除を行う場合は、散布量を適正にして、結球部の重なりが多い部分にもしっかりと薬液を行き渡らせる。</p>
--------	---	--

果樹 全県共通	<p><b>1 栽培管理</b></p> <p>(1) 降雨や日焼け等による果実品質の低下に留意し、適期収穫に努める。</p> <p>(2) 傷害果や腐敗果等の除去に努める。</p> <p>(3) 翌年向けた貯蔵養分蓄積のため、収穫後も葉を健全に保つ。</p>	<p><b>1 栽培管理</b></p> <p>(1) 果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p> <p>(2) 温州ミカンの日焼け果は裂果しやすく、病害の発生源となるので樹上選別で除去する。 イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるので、できるだけ早く園外に持ち出し処分する。また、疫病等の発生状況によっては出荷を一時停止し、臨機防除を行う。</p> <p>(3) 樹体栄養の回復を図り、貯蔵養分蓄積のため、適切な防除や礼肥の施用、少雨時のかん水を行う。</p>	
	<p>樹種別の生育状況（9月下旬：南あわじ市）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; width: 30%;">温州ミカン</td> <td style="padding: 5px;">早生品種を中心に全般に裏年傾向で着果は少ない。果実肥大、着色とも昨年とほぼ同等であるが日焼け、裂果が多い。</td> </tr> </table>		温州ミカン
温州ミカン	早生品種を中心に全般に裏年傾向で着果は少ない。果実肥大、着色とも昨年とほぼ同等であるが日焼け、裂果が多い。		

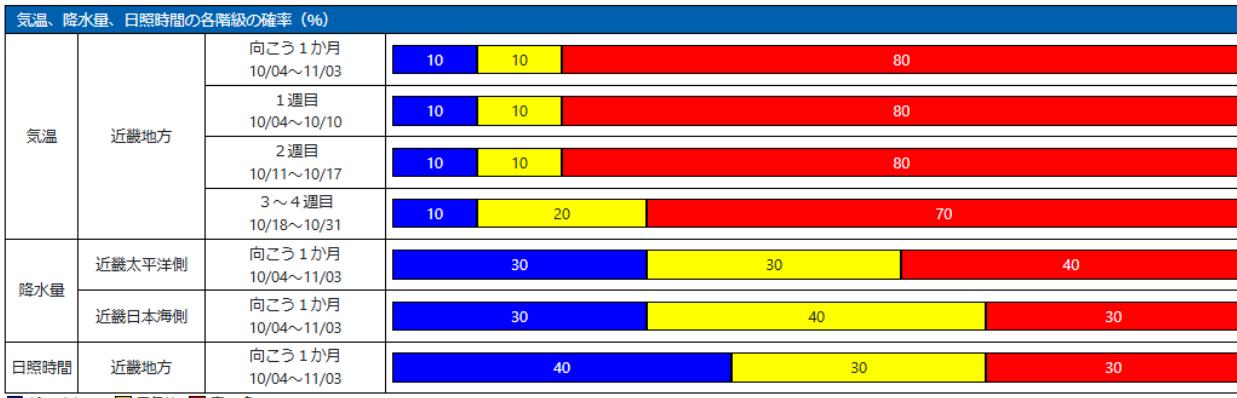
<p><b>2 病害虫</b></p> <p>(1) 果樹を加害するカメムシ類の発生は平年並と予想している。今後気温は平年並～やや高いとされており、果樹カメムシ類の活動に好適な状況が続くため、これから収穫期を迎えるナシ、カキ等の果実への加害が懸念される。</p>	<p><b>2 病害虫</b></p> <p>(1) 発生状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。薬剤散布を行う場合は、農薬使用基準を守ること。病害虫・雑草防除指導指針を参考に薬剤を選定する。</p>
---	---

※本情報は、10月7日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

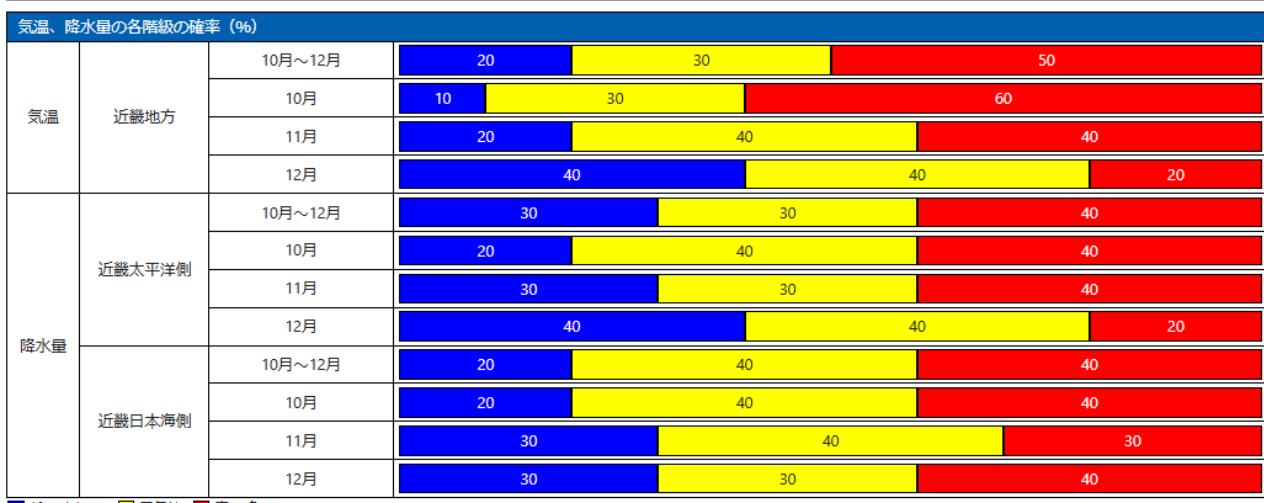
### (1) 近畿地方 1か月予報

近畿地方 1か月予報 (10/04～11/03)		2025年10月02日14時30分 大阪管区気象台 発表
特に注意を要する事項		向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 10/04～11/03	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
1週目 10/04～10/10	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 10/11～10/17	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/18～10/31	気温	3～4週目は、高い確率70%です。



### (2) 近畿地方 3か月予報

近畿地方 3か月予報 (10月～12月)		
2025年09月22日14時00分 大阪管区気象台 発表		
10月～12月	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
11月	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
12月	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
	天候	近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または低い確率ともに40%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。



※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020年)における各階級の出現率が3%となるように決めてあります。

## ホームページアドレス

- ・「兵庫県病害虫防除所（病害虫発生予察情報）」  
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針」  
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稻・麦・大豆作等指導指針」  
[https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

## 問い合わせ先

### 本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078) 341-7711(代表)

農産班:主作・機械担当 内線 79409

農産班:野菜担当 内線 79410

花き果樹班 内線 79411

### 技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部

TEL (0790) 47-2435

農業技術センター 農産園芸部

TEL (0790) 47-2410

農業技術センター 病害虫部

TEL (0790) 47-1222

北部農業技術センター 農業・加工流通部

TEL (079) 674-1230

淡路農業技術センター 農業部

TEL (0799) 42-4880